

鹿川地区周辺ガイドマップ

① くもがだき
集落から約6km北、鹿川
管林軌道敷跡のこの地では、
網の瀬川や釣鐘山を望む
ことができます。



② 黒尊石
集落から約4km北西、日隠山の山麓にそびえ立つ花崗岩の自然石で、高さ約20m、直径約2mといわれています。巨石の形が仏の姿に見え、地元では黒尊(くろすみ)様と呼びます。旧正月16日が例祭日、早朝参拝、神楽奉納の伝統を守っています。



③ こしき岩
集落から約4km北西、黒尊石の近くにそびえ立つ岩峰で、地元では男の勲章に似た珍岩として知られています。



④ 地藏岳
大崩山から南西に延びる尾根の地藏岳。山頂は平凡なスズタケに囲まれた山で、登山ルートは大崩山宇土内谷登山口から林道を300m戻ったところの橋の手前があります。



⑤ 西郷隆盛宿営の地
明治10年の西南の役に北川町に追い詰められた西郷隆盛は、上祝子から山を越して鹿川に着きました。鹿川から鹿川峠を越えて岩戸、三田井(現高千穂町)に行く途中、ここに陣を敷き野営したといわれています。



⑥ 釣鐘山
高さ1396m。尖った山頂部が天を突き、釣鐘状の山容とたたずまいが山名となりました。明治時代、西郷隆盛が延岡市北川町上祝子水流から鹿川を経て登山口である鹿川峠八合目付近に露営したとされ、西郷隆盛露営のゆかりの山として知られています。



⑦ 鹿川神社
祭神は、伊弉那岐命・伊弉那美命・事逆解男命・黒尊神石。例祭日は、11月下旬で町内で数少ない夜神楽を奉納し長い伝統を守っています。



⑧ 民宿なかま TEL0982-48-0577
この集落にある唯一の民宿。回炉裏や岩風呂があり、田舎の温かさが伝わってきます。



⑨ 庚申塚
舟の形をしていることから、舟型庚申塚ともいわれています。鹿川公民館下方の村道にあり、「奉待庚申 寛政7年7月11日」と刻まれています。



⑩ かんげ岩
杉山の中にある岩で、岩が岩をかついているように見えることからこのように呼ばれるようになりました。地と墓石などが残されています。



⑪ 金鶏山杉高寺跡
禅宗。明治4年の廃仏毀釈によって廃寺となり、舟の尾の昌龍寺に合寺しました。現在は、寺跡敷地と墓石などが残されています。



⑫ 名なし岩
鹿川橋の下にある丸い巨岩、特に名前がないため名なし岩と呼んでいます。



⑬ 鹿川キャンプ場
標高700m付近に位置し、祖母嶺国定公園と鹿川渓谷に囲まれた大自然豊かなキャンプ場です。



⑭ 鹿川渓谷
天然杉の生い茂るこの渓谷は、長さ2kmに及び、その澄んだ清流には多くのヤマメが生息しています。また、一枚岩の花崗岩は天然の滑り台として、夏は多くの観光客でにぎわいます。



鹿川地区
鹿川は、大崩山や日隠山、釣鐘山など祖母嶺山系の麓に位置する標高450m~800mの地区で、大きく鹿川集落(日之影町)と上鹿川集落(延岡市)に分かれています。基幹産業は農林業で、水稲や椎茸、ミニトマト、花卉、肉用牛などを生産し、特に冷涼な気候を利用したミニトマトのハウス栽培では、品質・反収とも高い評価を受けています。また、毎年11月下旬から行われる夜神楽や旧暦の1月16日に開催される黒尊様まつり(日之影町)など、豊かな自然とあわせ、文化や歴史が大切に受け継がれている地区です。

鹿川の由来
網の瀬川の河岸に、突出した細長い象の鼻に似た石と、獅子が大きく口を開けその中に丸い石をくわえたように見える石がありました。この二つを合わせて「獅子象様」として崇め祀られ、この獅子象様が鹿川の地名の始まりといわれています。



⑮ 神楽館
上鹿川集落のコミュニティ施設。毎年、12月の第1・第2週末には、この施設で夜神楽が奉納されます。



⑯ 田の中の岩
網の瀬川沿いの田の中にボツンと一つ丸い巨岩があります。「田の中になぜ石が?」と思わせるような光景です。



⑰ どんどん岩
網の瀬川の水の音が岩に響いて「どんどん」と音がすることから名付けられました。



⑱ 割れ岩
網の瀬川の真ん中にある真つ二つに割れた石。いつ、どのようにして割れたのかは不明です。



⑲ 釣鐘谷の観音様
釣鐘谷橋より西に100mの所に観音様が祀られています。



⑳ 鬼の目山
高さ1491m。ここには、地球唯一の植物「ツチビノキ」が自生しているほか、フナツガ・カエデ類などの樹生も多く見られます。鹿川キャンプ場登山口から山頂までの高度差は約760m。鉾岳の豪快な岩峰を左側に見上げながら登ります。山頂の展望は、北西側に大崩山が望めます。

マップ範囲